平成２２年度行政改革懇話会

# 行政改革懇話会（22／7／1)における田岡市長談話要旨

（注）文責　辻

【時代認識】～～パラダイム・シフトが急速である。
○　世界は、大変換の真っ只中にある。
○　日本は、三度目の『黒船来襲』に当面している（“Ｇ２０”と総理の“消費税発言”)
○　政治は、二律背反の政治課題に取り組まなければならない（「財政の健全性回復」と「新しい成長戦略」）
○　経済は、「過去の延長上の成長の終焉」を迎えている。
○　地域は、「右肩上がり」（拡大）から「右肩下がり」（収縮）の時代を迎える。

【石狩市】～～代表的な社会縮図を示しており、様々な課題が顕在化する。
○　石狩市は、３０年間で急速に先進的都市構造を持ったまちになった。（人口、花川団地、石狩湾新港、・・・・）
○　速いスピードで都市化したまちは、早いスピードで様々な課題が短期間に重なって顕在化する。（人口動向予測、高齢化率予測、地域インフラ老朽化、・・・・・）

【採られてきた努力】～～随分いろいろなことを進めてきた。
○　財政基盤改善への努力
　　１　実質的収支　　＝　高利借入の縮減、基金の回復に努力した。
　　２　交付税の推移　＝　新政権の「地域重視」により交付税は増加したが、国債消化環境の変化は、その継続性に限界のあることを示している。
　　３　財政指標の推移＝　早めの改善努力はたに比較して先進的な成果を生んでいるが、この後も油断はできない。（実質公債比率、将来負担比率、経常収支比率）
　　４　（私の任期における）初めての“はこもの”「子供館」に投資できた。
　　＝　子供が育つ地域でなければ、老人福祉の力も生れない。
○　市民の立場に立った「横串組織」の形成（プロジェクト組織の活用）を導入している。
○　「あいかぜ運動」（提案制度）、年功序列人事排除、職員評価制度導入、・・・・・等を進めてきた。
○　“対応的”な組織改革の実施を指示した。

【問題の顕在化】～～皆が「このままでは行かない」と感じ始めている。
○　財政が萎縮する。
○　「低負担高福祉」が続けられない。
○　地域インフラ保全コストが増嵩する。

【石狩市行政組織が抱える課題】
○　市役所が抱える課題
　　１　（人員）　大幅減員
　　２　（体質）　経験ある職員の退職、
　　新世代職員の特徴

（完成した組織で育った脆弱性、連係プレイ～会話力の弱体化、･･･）
（地域を知らない～地場産品を知らない）

３　（育成）　職場の職員育成力・管理職の指導力不足
（職員を育てることが苦手な職場～～いろいろやっているのだが･）

４　（職務遂行確度の劣化）＝全国各役所で発生している事務事故

【課題への対応｝～～新しい考え方（感覚）で早く手がけなければならない。

○　財政運営のスキームの条例化も考える
○　地域の独自優位性を確立しなければならない。（石狩湾新港、地域産品・・・）
○　「市民力」が問われる。～「ごみ減らし隊」の成功例
○　行政組織の改革が進められなければならない。
・　横串機能が必要である。（浜益のタウンミーティングで「何故、国保の検診と福祉課の検診のふたつがあるのか」と指摘された。）既往の縦型組織を跨る課題が少なくない（例、幼保一元化）
→　「プロジェクトチーム」で対応。一定の成果を得たら経常（タテ）組織にする。
・　組織の臨機対応性が低い（季節的・変動するニーズへの柔軟、流動的な対応力が無い。）
→　組織改定を部長に指示している。

【当懇話会への問題提起】～～伝統的な仕事の仕方では、将来課題に対応できない。

①　『基本的な論議は早く始めなければ時代変化に間に合わない。大切な論議をこの懇話会でもしていただいて、（恐らくは明解は無いかもしれないが）問題提起を含めた意見を聞かせて戴きたい』
②　『聴く側だけでなく、説明する側にも立ってほしい』

以　上

◎　この懇話会で論議するテーマの設定

| |
|---|
| テーマ１ |
| テーマ２ |
| テーマ３ |